

ワルファリン投与中に抗菌薬投与等のため INR が延長した血液透析

患者の 1 症例

長崎腎病院

○大津留更 小峯真耶 矢野未来 江藤りか 佐々木修 一ノ瀬浩 原田孝司
船越哲

【はじめに】

ワルファリンは重篤な腎障害患者には原則禁忌とされているが、透析患者へは人工弁置換術後など、必要に応じて INR を測定しながら使用されている。今回、抗菌薬を併用し INR が 3 倍以上に延長した症例を経験したので報告する。

【症例】

67 歳男性、原疾患は糖尿病性腎症、透析歴 8.5 年。僧帽弁置換術後、ワルファリンを開始され、INR を 2 以下でコントロールしていた。

【経過】誤嚥性肺炎で入院し絶食とし、抗菌薬の TAZ/PIPC4.5 g が開始となった。ワルファリンは 4 mg で継続していたが、抗菌薬投与 3 日目の INR が 2.85、10 日目に 8.65 と延長したためワルファリンを休薬、ビタミン K のメナテトレノンの静注、内服により 13 日目には INR は 1.28 と低下し、ワルファリンを 2 mg で再開した。

【考察】

本症例において、INR が延長した要因として、絶食によるビタミン K の摂取不足、抗菌薬の投与による腸内細菌叢の変化によるビタミン K 産生低下、低栄養によるワルファリンの蛋白結合率の低下が考えられた。

【結語】

透析患者へのワルファリン投与は、栄養状態・摂食状況の変化や抗菌薬の投与による INR が延長する場合があります、注意深く観察する必要があります。